

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2006年7月)
 ~天候要因によりマイナス~

発表日2006年9月15日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 結城 良彦
 TEL : 03-5221-4573

(単位:%)

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療、福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.5	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.4	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
05	1-3月	1.2	2.1	3.7	▲1.6	0.4	1.5	1.6	▲0.2	2.1	0.7	2.1
	4-6月	0.2	1.9	▲0.9	0.9	1.2	▲0.2	▲0.5	0.9	▲0.1	▲0.1	0.3
	7-9月	0.4	2.2	0.0	▲0.7	▲0.1	▲0.2	3.0	0.7	0.0	0.0	0.6
	10-12月	1.1	2.6	3.6	2.1	▲0.5	1.1	4.4	1.1	0.9	0.6	▲0.2
06	1-3月	0.3	2.0	▲0.7	▲1.3	0.6	0.6	▲1.1	▲0.7	1.2	0.9	0.6
	4-6月	0.6	2.6	▲0.8	1.2	0.5	0.8	▲1.0	0.6	0.6	▲0.2	1.1
05	1月	1.6	3.1	3.5	▲2.8	0.5	4.1	2.5	▲0.6	▲0.5	0.8	1.3
	2月	▲0.7	1.5	2.0	0.8	▲0.5	▲2.4	▲0.7	0.3	▲0.6	▲0.5	▲0.2
	3月	▲0.4	2.0	▲0.7	▲1.2	1.9	▲2.2	▲0.2	▲1.2	0.0	0.5	▲0.5
	4月	1.0	1.9	▲0.2	1.0	0.3	2.6	0.2	1.1	0.3	▲0.1	0.8
	5月	▲0.8	1.9	▲2.1	▲1.0	▲0.8	▲1.0	▲0.3	0.8	▲0.4	▲0.2	▲0.9
	6月	0.6	1.9	1.8	3.4	1.2	0.4	▲0.3	0.1	0.1	▲0.3	1.5
	7月	▲0.3	1.3	▲3.2	▲2.9	▲0.6	0.1	1.1	▲0.2	▲0.2	0.1	▲0.4
	8月	1.1	3.2	3.9	1.0	0.3	0.7	2.5	1.1	0.0	0.6	0.7
	9月	▲0.7	2.0	0.6	▲0.8	▲0.6	▲2.1	1.3	▲0.5	0.9	▲0.7	▲0.5
	10月	1.0	3.2	0.4	4.6	▲0.4	1.6	1.5	0.9	0.2	0.0	0.0
	11月	0.3	2.7	▲0.4	▲3.1	0.3	0.9	1.0	▲0.2	▲0.5	0.7	0.4
	12月	0.0	2.2	5.3	▲0.6	0.1	0.4	1.2	0.6	1.6	1.2	▲1.2
06	1月	1.5	2.3	▲2.6	2.9	0.2	3.1	0.0	▲0.3	▲1.0	0.7	1.9
	2月	▲1.4	2.5	▲1.5	▲2.8	▲0.8	▲3.5	▲1.9	▲1.3	1.6	▲2.0	0.7
	3月	▲1.1	1.2	▲0.8	▲2.3	2.3	▲1.9	▲2.9	0.0	0.6	1.8	▲2.9
	4月	1.6	2.1	2.5	3.2	▲1.4	2.9	2.2	1.0	▲1.1	▲1.9	2.3
	5月	0.7	3.6	▲2.5	▲0.3	1.0	0.8	▲0.5	0.1	0.4	2.6	1.6
	6月	▲0.8	2.0	▲1.3	2.6	0.0	▲0.3	▲0.9	0.0	▲1.3	▲1.6	▲1.5
	7月	▲0.2	2.1	▲1.5	▲1.1	▲0.3	▲0.4	▲1.0	0.1	▲0.3	0.8	1.0

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数：前月比▲0.2%と2ヶ月連続マイナス

7月の第3次産業活動指数は前月比▲0.2%となり、ほぼ市場予測通り（コンセンサス▲0.1%、レンジ▲0.9%～+0.3%）の結果となった。主要11業種のうち、マイナスに寄与した業種は、情報通信業、卸売・小売業、金融・保険業、電気・ガス・熱供給・水道業、学習支援業、複合サービス事業、運輸業、飲食店・宿泊業の8業種で、プラスに寄与した業種はサービス業、医療・福祉、不動産業の3業種であった。

このうち、マイナスの影響が大きかったのは小売業（前月比寄与度▲0.11%ポイント）や情報通信業（同▲0.11%ポイント）、金融業（同▲0.09%ポイント）といった業種である。7月は例年よりも梅雨明けが遅れ、各地で大雨となった。外出を控えた人も多かったとみられ、個人消費が抑制された。さらに原油価格高騰による買い控えが消費を押し下げ、小売業のマイナスにつながったと考えられる。それ以外の業種においては、情報通信業でソフトウェア業が振るわなかったほか、株価が低迷していたこともあって金融業が振るわなかった。金融業のマイナスは7月で4ヶ月連続となる。一方で、先月値の落ち込んだ対個人サービス業は反発し、サービス業を押し上げる（同+0.21%ポイント）結果となった。

○ 天候不順が解消する8月の数値に注目

7月の第3次産業活動指数を4-6月期の平均と比較すると▲0.5%となり、弱めの結果となった。6月の第3次産業活動指数も下方修正（前月比▲0.8%←同▲0.6%）されたことを考えると、7月の数字はやや弱

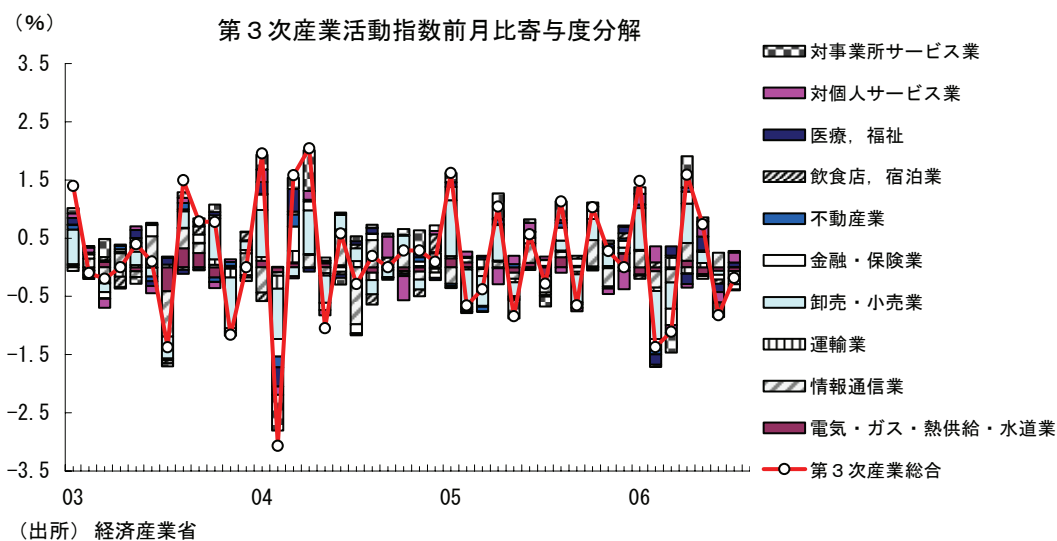
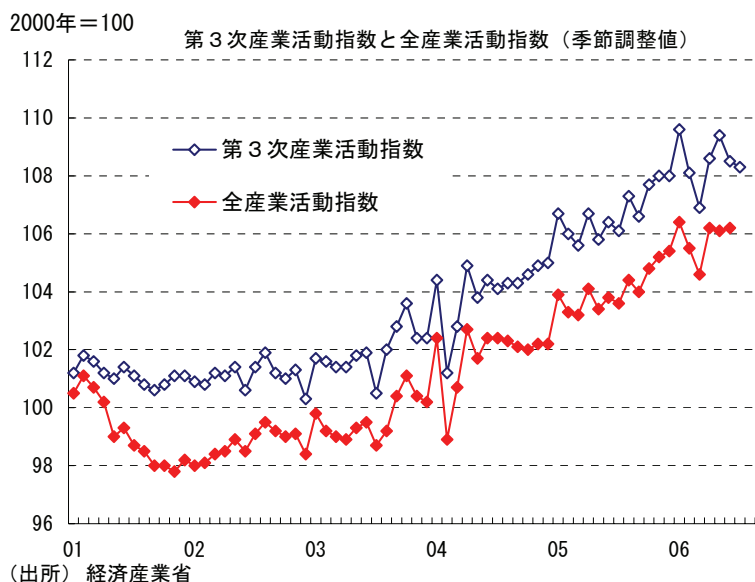
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

かったといえるだろう。ただし、7月は天候要因により、一時的に値が押し下げられていた側面が大きい。8月は、天候不順の要因が剥落するとみられることからプラスが期待される。実際、8月の景気ウォッチャーでは、消費が回復してきたというコメントが多くみられた。また、個人消費回復の基盤となる雇用環境も改善してきていることから、今後個人消費は回復基調に復帰すると考えられる。その結果、8月以降の第3次産業活動指数は底堅く推移すると見込まれる。

○7月全産業活動指数は前月比マイナスを予測

今回の第3次産業活動指数の結果をもとに7月の全産業活動指数を予測すると、前月比▲0.4%（前年同期比+2.0%）となる。今回第3次産業活動指数が低下したことに加え、鉱工業生産指数も前月比▲0.9%と落ち込んだことが原因である。

鉱工業生産は秋以降、IT関連の在庫調整によりやや伸びが鈍化してくるおそれもあるが、第3次産業活動指数は回復基調を維持し、全産業活動指数を下支えしていくとみられる。今後は非製造業と個人消費が景気を安定させていこう。7月の全産業活動指数はマイナスを予測するが、回復基調そのものには変わりはなく、景気が後退に陥るようなことはない判断する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。